

## 研究・調査報告書

報告書番号 160	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
A re-evaluation of the role of tetrahydropapaveroline in ethanol consumption in rats ラットでエタノール摂取における tetrahydropapaveroline の役割の再検討	
執筆者	
McCoy JG, Strawbridge C, McMurtrey KD, Kane VB, Ward CP.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Brain Res Bull. 2003,60(1-2):59-65.	
キーワード	
Tetrahydropapaverolin、エタノール、常習性	
要 旨	
<p>tetrahydropapaveroline(THP)はドーパアルヒドドとドーパミンの縮合生成物でありアルコールの摂取量の調節に関係していることが調べられている。本研究では THP の投与がエタノールの摂取に与える影響について検討した。第一の実験でラットはラセミ体 THP ハイドロブロマイド(0.65 または 1.3 <math>\mu\text{g}/\mu\text{l}</math>), R(+)-THP(0.66 または 1.41.3 <math>\mu\text{g}/\mu\text{l}</math>)、同量の溶媒を脳室内に投与した。その結果、低投与量の(+/-)THP や(+)-THP は自発的なアルコールの摂取量を有意に増加させた。ラセミ体投与による増加は 7-13%エタノール濃度で観察され、R(+)-エナンチオマーは 4-11%、15-20%濃度のエタノールで増加が観察された。これらの投与はアルコールに対する嗜好を有意には変化させなかった。第二実験で THP を皮下にポンプを用いて慢性的に投与することで検討した。THP(0.1, 0.5, 1.0, 2.0, 4.0 mg/ml) を投与されたラットはコントロールを投与されたものに比べてアルコールの摂取量に変化は観察されなかった。アルコールの常習性の病因として内因性の THP が関与しているか否かについては明確な結論は得られなかったが、実験動物で水よりも甘くないアルコール溶液に嗜好を導く成分についてはほとんどわかっていないのが現状であり、さらなる検討が必要であろう。</p>	